

# 子どもの夢と可能性を育む教育課程（北海道教育大学附属札幌小学校）について（札幌市）

## 1 札幌市の概要

- (1) 人口 1,897,333人(男:892,617人 女:1,004,716人)
- (2) 世帯数 966,903世帯
- (3) 面積 1,121.12km<sup>2</sup>
- (4) 予算額 8,464億円(平成23年度一般会計当初予算)
- (5) 議員数 68人(条例定数68人)

数字はすべて平成23年4月1日

## 2 北海道教育大学附属札幌小学校の概要

### (1) 地理的環境

北海道教育大学附属札幌小学校（以下、附属小学校）は、190万の人口を擁する札幌市街の北東に位置し、石狩市・当別町に隣接する田園地帯にある。現校舎は、平成元年4月に、札幌市中央区から現在地「あいの里」へ移転してきた。附属小学校は北海道教育大学札幌校、附属中学校と同一キャンパス内にあり、更に廊下で中学校、特別支援学級とつながっていることから、それぞれと連携した運営、研究交流が可能な環境にある。

### (2) 学級編制

各学年2クラスの12学級。1学級の定員は40人。他に特別支援学級が3クラス。

### (3) 教職員

校長は北海道教育大学の教授が兼務している。副校長他17人の教職員は全て市内公立学校からの派遣教員となっている。また、数年後には市内の公立学校に戻ることになる。

### (4) 非常勤講師

現在10人の非常勤講師がいる。外国語活動の補助として外国人1人と日本人1人がそれぞれ学年を分担し、担任とともに外国語活動の

指導にあたっている。図画工作の専科としては非常勤講師 2 人が 5 つの学年を指導している。また、副担任という形で大学院の学生 6 人を指導補助として配置している。

( 5 ) 入学選考

1 2 月に翌年度の入学選考を実施している。受験資格は札幌市内に保護者共に在住、自力通学が可能であることなどとしている。また、入学試験問題は入学後に習うような内容を出題することはない。

( 6 ) 児童の通学状況

附属小学校の児童は、札幌市全域から通学している。そのため、バス・地下鉄・JR・市電を利用して通学している児童が、全校児童の約 8 7 % (平成 2 3 年度) に及ぶ。地下鉄麻生駅、栄町駅と附属小学校の間には、本校児童のために通学用のバスを運行させている。また、JR あいの里教育大駅からもバスが出ている。このように公共交通機関を利用して通学することは遠距離ゆえの辛さもあるが、社会性を培うよい機会となっている。

( 7 ) 附属学校としての使命

- ア 義務教育学校として、公立学校と同様に初等普通教育を実施する。
- イ 大学の附属校として、学生の教育実習を実施する。
- ウ 実験・実証学校として大学との研究連携を保ち、附属学校として実践的な立場から、実験・実証を試みる。
- エ 教育研究校として、教育の理論と実際に関する各分野の実践的研究を試みる。
- オ サービスセンター校として、実践研究の成果を、全道教育研究大会での授業公開、研究紀要の刊行、研究情報紙の発行などを通して発表する。

### 3 子どもの夢と可能性を育む教育課程

( 1 ) 「第 1 1 次ふぞくの教育課程」の編成

平成 2 3 年度新学習指導要領の完全実施にあわせ 3 年の準備期間を設け、全教職員が協働してその達成に取り組み第 1 1 次の改訂を迎えた。特に今回の改訂においては、次に挙げる 3 点を教育課程の柱とし

て編成を進めた。

#### ア 共生の文化を創造するための教育課程

「共生の文化を創造する学校」は附属小学校の教育目標である。将来、子どもたちは間違いなく大勢の人々が暮らす社会のなかで未来を背負って生きて行く。その社会をよりよく築く人材になる力を育む教育課程として編成した。そのため附属小学校ではどの教科でも子どもたちで話し合い、問題解決の過程を大切にした授業を実施している。これは授業を一つの社会の縮図と考え、子どもたちにさまざまな交流をさせていく教育課程の実践である。

#### イ 学校が子どものふるさとなるための教育課程

多くの公立小学校の子どもにとっては学校の周辺が自分の住む地域であり、ふるさとになっている。一方、附属小学校の子どもたちは札幌市全域から通学しているため学校と居住地域の環境が異なる。そこで附属小学校では、生涯続く「学び」の下地を整えることをふるさとと位置づけた。巣立った後の「学び」のために子どもたちが、これから長く続く人生をよりよく、しっかりと生きていくための力を蓄えることである。意識することはないかもしれないが、あの附属小学校で学んだことがここで役に立つとか、あの時の考え方を今こそ発揮するべきだというように、教育課程のもとでの学びが将来の学習や判断の基盤そして学習のふるさととなるよう検討を重ねた。

#### ウ 子どもの夢と可能性を育むための教育課程

夢や可能性の基盤である10年先も変わらない項目を重要視した。具体としては道徳観や礼節、礼儀、伝統を重んじる心、問題解決的な学習といった5つの変わらないものを基盤にしてその上で夢や可能性を子どもたちが語れるようにというコンセプトである。

附属小学校の使命として他の市内公立小学校よりも教育活動が斬新であることが求められる。しかし斬新過ぎることにより社会との乖離が生じてはならない。そこで市内公立小学校の教育活動から半歩先の展開をするという立ち位置のなかで、授業がおもしろい、考えることがおもしろいと感じることができる教育活動に取り組んでいる。

#### 4 委員・会派の所感

台風12号の影響で、本視察前日が臨時休校となり心配が募る視察であったが、所期の目的を達成することができた。到着時刻が速まり、予定時間を超えての内容の濃い視察となったことは、多忙にも関わらずに最後まで御同席いただいた校長先生をはじめ各先生方の御配慮に感謝申し上げます。視察終了後、あいの里駅からの電車のなかで附属小学校の1年生の子どもたちと同乗することとなった。長時間の通学などの心配をよそに、屈託のない笑顔で友達との会話を楽しんでいる姿に車中での違和感はなく自然に同化している姿は既にひとりの社会人である。附属小学校の教育課程は、初等教育における教育課程の重要性をわかりやすく効率的に編成され実践されていた。本区小学校が持つ教育環境と異なる視点から、本区教育行政を顧みる機会を得たことは大きな収穫であった。

「子どものふるさとなるための新教育課程」の説明ではタンポポに例えての説明が印象深かった。さしずめ教育課程は大地であろう。新教育課程では学びをふるさとに結びつける発想が斬新であった。教育活動を社会の縮図と考える合理性も見逃せない。こうしたすばらしい教育課程を意識する子どもはいない。しかし附属小学校での学びの心は今後更にグローバル化が進み大きな社会の変化の中で益々重要となるに違いない。子どもたちの成長が楽しみである。また、保護者との連携では、読み聞かせやマナー指導など保護者の教育力を積極的に学校の教育活動に取り入れている。本区の教育力向上に示唆を得た。

子どもたちが卒業した小学校を「ふるさと」のように思い出せる学校にしようという教育方針には感銘を受けた。子どもたちのなかで、学びのふるさととなる学校を実現するため「子どもの見方・考え方を鍛える」授業を設定し、将来子どもたちが出会う困難や課題に立ち向かう力を養っている。何より子どもたちの笑顔、子どもたちのだれもがだれに対しても、積極的に挨拶ができることに、爽やかさ・癒し・元気をもらったとともに教育力の高さを感じた。

ホームページで、子どもたちや先生方の雰囲気もわかり、お会いするのが楽しみでした。研究主任は学級担任を持たないというのは、東京の

公立小学校では考えられないことです。公開研究発表を毎年実施している附属小学校ならではないでしょうか。また、英語専科をはじめ講師の配置も参考になりました。音楽の先生の授業を見せていただくのが楽しみでしたが、予想通りすばらしい授業でした。子どもの歌声はすばらしく、「ありがとう」のコーラスは胸に響きました。音楽の楽しさを味わえる授業はいいですね。子どもたちのがんばっている姿はすばらしい。

学校の特徴として北海道教育大学札幌校及び附属札幌中学校と同じキャンパス内にありそれぞれと連携している。今回視察時に約50人の研究実習生が各教室で授業を行っていた。休み時間も実習生が生徒たちと教室や校庭で一緒になって遊んでいた。その時の実習生や生徒たちの笑顔は大変印象深いものがあった。また、特徴的だったのは教師を附属小学校独自で採用しているのではなく、校長先生だけは大学の教授であるが、それ以外は札幌市の教員が派遣されている点である。この学校で一定期間、小中学校の教育の最先端を学び、地域に戻りそれぞれの地域教育を担っていく。日本全国の教員育成の見本となるのではないかと考える。江戸川区の教育行政を新たに考える際に、今回この学校が視察できたのは大変重要な課題を委員会として与えられたのではないかと考える。

授業風景は、子どもたちに社会性、自立性、理解力、回復力を身につけることを優先に教員が指導にあたり、子どもたちも積極的に全員参加で楽しく、のびのびと授業に参加していた。外国語にも力を入れており外国人も非常勤講師として指導に当たっている。副担任として将来、教職員を目指す大学院の生徒も更なる専門性を磨くべく、一生懸命に担任の補助をしている姿は、大きな意味があると感じた。本区でも少子化の問題、学力向上の推進、各学校の教育目標を達成するためにどうすればいいのかということを経験者、また地域が一体となり、より一層取り組んでいくことが必要不可欠である。今回学んだ半歩先の教育を心がけ、私も文教委員会委員として、これからも子どもたちに夢や希望の持てる社会を実現していこうと決意を新たにした。

報告書の作成にあたっては、北海道教育大学附属札幌小学校の資料を参考にしました。

## 市民が支える博物館（小樽市総合博物館）について（小樽市）

### 1 小樽市の概要

- ( 1 ) 人 口 1 3 1 , 7 4 4 人  
( 男 : 59,633 人 女 : 72,111 人 )
- ( 2 ) 世帯数 6 6 , 9 8 4 世帯
- ( 3 ) 面 積 2 4 3 . 3 0 k m<sup>2</sup>
- ( 4 ) 予算額 5 5 1 億 7 , 2 1 5 万円  
( 平成 2 3 年度一般会計当初予算 )
- ( 5 ) 議員数 2 8 人 ( 条例定数 3 4 人 )

数字はすべて平成 2 3 年 4 月 1 日

### 2 小樽市総合博物館の沿革

- 昭和 3 1 年 6 月 2 0 日 旧日本郵船小樽支店 ( 国重要文化財 ) の建物で小樽市博物館として開館
- 昭和 3 1 年 7 月 1 日 小樽市総合博物館と改名して登録
- 昭和 3 8 年 8 月 2 日 小樽市青少年科学技術館開館
- 昭和 5 9 年 1 0 月 1 日 建物 ( 重要文化財 ) 修復工事のため閉館
- 昭和 6 0 年 5 月 2 0 日 色内 2 丁目、旧小樽倉庫株式会社の倉庫の一部を博物館とするための工事着工
- 昭和 6 0 年 9 月 3 日 博物館工事が竣工し第一展示室 ( 歴史展示室 ) 開館
- 平成 元年 9 月 8 日 博物館第二展示室 ( 自然・考古展示室 ) 造作工事着工
- 平成 2 年 2 月 2 3 日 第二展示室竣工し小樽市博物館 ( 現総合博物館 運河館 ) 全面開館
- 平成 5 年 4 月 1 日 北海道交通記念館建設準備室設立
- 平成 6 年 4 月 1 日 科学館の利用料金無料化を実施  
博物館で年末年始を除く通年開館開始
- 平成 8 年 4 月 2 0 日 小樽交通記念館開館
- 平成 1 7 年 4 月 1 日 料金改定 ( 大人 3 0 0 円 高校・高齢者 1 5 0 円 )

中学以下無料)

平成 18 年	3 月 31 日	小樽交通記念館閉館
平成 18 年	4 月 1 日	新博物館開設準備室設立
平成 18 年	12 月 28 日	小樽市青少年科学技術館閉館
平成 19 年	7 月 4 日	小樽市総合博物館・同運河館開館
平成 21 年	4 月 1 日	小樽市重要文化財旧日本郵船株式会社小樽支店・ 小樽市手宮洞窟保存館を含む文化財業務が移管
平成 22 年	4 月 29 日	重要文化財旧手宮鉄道施設 機関車庫三号再公開

### 3 小樽市総合博物館の概要

#### ( 1 ) 本館 ( 小樽市手宮 1 丁目 3 番 6 号 )

ア 敷地面積 52,300 平方メートル

イ 本館の主な常設展示

( ア ) しずかホール・・・明治 18 年米国製蒸気機関車「しづか号」  
や国産一等客車「いー号」などを展示

( イ ) 第一展示室・・・鉄道の敷設計画から戦後の乗車券など北海道  
の鉄道史を紹介

( ウ ) ドームシアター・・・座席数 32 席の小型ドーム。デジタル方  
式でのプラネタリウムなどの映像投影

( エ ) 本館内には他に科学展示室・企画展示室・実験室・研修室など  
がある。

ウ 主な本館敷地内の施設

( ア ) 蒸気機関車資料館・・・蒸気機関車の部品や修理用工具類の展  
示室。旧小樽築港機関区の資料等は産業史上貴重なもの

( イ ) 車両保存館・・・機関車庫 1 号・機関車庫 3 号に準鉄道記念物  
のかき寄せ雪かき車、国産機関車「大勝号」などが保管

( ウ ) アイアンホース号 ( 動態展示 )・・・1909 年米国製蒸気機関  
車が敷地内を運行する

#### ( 2 ) 分館 ( 運河館・小樽市色内 2 丁目 1 番 20 号 )

ア 敷地面積 1,494.58 平方メートル

イ 主な常設展示

- (ア) 第一展示室(歴史展示室)・・・小樽のあゆみをテーマに、オタルと北前船・商都の誕生・ニシン漁・隆盛の小樽・運河と港明などを紹介
- (イ) 第二展示室(自然・考古学展示室)・・・小樽の自然環境をテーマに自然と昆虫・小樽の森・小樽海岸の自然・小樽の植物などを紹介

#### 4 市民が支える博物館

市民が支える博物館として特別研究員制度とボランティア活動に着目した。

##### (1) 小樽市総合博物館特別研究員(平成22年4月より実施)

研究面での専門的な支援をいただいている市民の方に、所蔵する資料をさらに専門的、継続的に利用いただくことを目的とする。

各専門分野の学芸員とともに総合博物館の調査、研究に参加、協力いただくだけでなく、年1回程度、講座等での講師も務めていただく。

特別研究員は博物館に長期にわたり協力、指導いただいているボランティアなどの市民の中から、調査、研究実績などを考慮し、博物館協議会の審議を経た上で館長から委嘱する。特に市民の中で地道に活動を続けている方を発掘し、総合博物館を通じて市民にその成果を還元していただくことを目的とした人選をする。第一期特別研究員は2人。

##### (2) 小樽市総合博物館ボランティア(組織化は平成19年4月より実施)

小樽市総合博物館では、市民の生涯学習と自己啓発を最大の目的としたボランティアが博物館活動に参加している。

旧博物館時代より調査等に個人的なネットワークで参加していたボランティアを総合博物館開設時に組織化した。

現在は8分野に91人が登録して活動を行っている。(平成22年度)

##### (3) ボランティア組織

報酬・食事代・交通費等は支給しておらず、ボランティア保険料(年

280円)も自己負担となっている。

「自分でしたい事を、したい時に」を基本にピラミッド型の組織を作らず、参加したいジャンルに気軽に加われるように「アメーバ型」の組織にしている点が特徴といえる。登録者の半数が60歳以上。

#### (4) ボランティアの8ジャンル

小樽市総合博物館のボランティア活動は解説、科学、環境、自然、鉄道、無線、歴史、調査の8つのジャンルに分かれている。

「解説」は来館者に対する展示資料の解説・案内と、そのための学習など継続的な活動を行っている。

「科学」は科学を体験してもらう実験講座・天文行事などの補助、科学資料・天文機器などの整理。

「環境」は花壇の手入れ、敷地内の清掃や整備作業など週2回程度の定期的な活動のほか、さまざまな臨時的作業についても活動を行うことがある。

「自然」は市内に生息する昆虫や植物等の調査・資料整理など。

「鉄道」は鉄道車両の塗装、鉄道展示の維持管理など。

「無線」はアマチュア無線の公開運用など毎週土曜日に定期的に活動している。

「歴史」は小樽に関する歴史資料の調査・整理・編集作業など。

「調査」は小樽における歴史資料や文化的資料の野外における調査・研究及び「印」調査・「軍事道路」調査などとしている。

## 5 委員・会派の所感

小樽市総合博物館のボランティアは、社会貢献と大上段に構えていないところが興味深い。好きなことを好きなときに始めることができる、市民との垣根を低くしたことにより文化財保護と観光などが相乗効果を生みだしている。ボランティアは、調査研究活動の報告会などで市民が興味を持つ機会を提供する、興味を抱いた人に活動の場を提供する、活動の成果が社会的に評価される場を提供するという循環型の構図といえる。長い歴史に培われた市職員と市民との心の絆を深める信頼関係が潤滑剤となり円滑な運営に結びついている。ボランティアがもたらす可能性を

再認識させられたと同時に文化財保護を見直す機会を得ることができた有意義な視察であった。

視察前に疑問があった。なぜ国鉄が北海道鉄道記念館として開館し、第3セクターとして経営不振となった広大な敷地と貴重な機関車や列車などを人口13万人の市で運営しなければならないのか。その答えを今回の視察で見つけることができた。貴重な文化財や史跡などの重要性を市や市民がだれよりも強く理解している。身近かにある文化財や史跡が朽ちてゆくのを黙って見過ごすわけにはいかない。だれかが手を差し伸べなければ未来への宝は確実に失われていく。特別研究員やボランティア活動の他にも小樽ファンが支えるふるさとまちづくり寄付金(ふるさと納税)などについても説明をいただいた。小樽の財産を守りたいという情熱が伝わってきた。本区の文化行政における都や国のバランス、企画調整及び振興事業のあり方について再検証していきたい。

博物館の運営においては、貴重な資料に触れ多くの人々との交流の中で、知的な喜びに出会うことができたらとの思いの中、博物館活動に多くのボランティアが参加している。市民の生涯学習と自己啓発を最大の目的とした素晴らしいボランティア活動を視察することができた。また小樽市では、歴史的な財産を後世に引き継ぎ、個性的で魅力ある町づくりを実現するべく具体的な事業を示し、全国の小樽ファンから寄付を募って町づくりを進めていた。

歴史的建造物の運営や維持管理の重要性を改めて認識した。ふるさと納税(1口5,000円)の運用やボランティア活動など市民参加の機会を広げている。特別研究員は、平成22年4月から実施しており、博物館に長期にわたり協力・指導いただいているボランティアのなかから館長が委嘱しており、第1期特別研究員は2人である。現在のボランティアは8分野91人が登録されている。報酬・食事代・交通費の支給はなく、年280円の保険料も自己負担としている。「自分でしたいことをしたいときに」を基本にピラミッド型の組織とせず、希望ジャンルに気軽に参加できるアメーバ型組織が印象的であった。

運河館は明治26年に建てられた木骨石造建築という小樽独特の様式である。その旧小樽倉庫の一部を改築し、小樽の歴史や自然及び遺跡な

どを展示している。本館では、広大な北海道の開発に必要不可欠だった鉄道関係の展示とプラネタリウムや実験室、科学展示室などで構成されている。車両の殆どは野外展示のため、海に近い小樽ではさび対策が大きな課題である。人口約13万人、一般会計の当初予算額が約551億円の小樽市では、博物館などの運営や維持管理の影響は大きい。そのなかでの市民によるボランティア活動は重要なポジションを占めている。地方自治体の文化振興事業をはじめとしたボランティアの新たな可能性を理解するとともに郷土を愛する気持ち、行政と住民の信頼の重要性を再認識することとなった。

市民が支える博物館という視点から視察を行った。総合博物館の市民ボランティアは、企画段階から事業に参画している。このため利用者の立場からさまざまなアイデアを出し合い博物館の運営に寄与している。身近に多くの人々が訪れる文化財や史跡があることから、ボランティア活動が自然なものとして受け入れられるのかもしれない。本区にも郷土資料館などの展示施設がある。大切なことは、多くの人々に文化財や史跡に興味を持っていただくことである。ここで学んだことをしっかりと生かし、これからも若い世代を中心に発信していく。歴史的財産を守っていくために。

報告書の作成にあたっては、小樽市提供の資料を参考にしました。

## 一緒につくる図書館 ( 帯広市図書館 ) について ( 帯広市 )

### 1 帯広市の概要

- ( 1 ) 人 口 1 6 8 , 4 6 4 人 ( 男 : 80,750 人 女 : 87,714 人 )
- ( 2 ) 世帯数 8 1 , 5 7 2 世帯
- ( 3 ) 面 積 6 1 8 . 9 4 k m<sup>2</sup>
- ( 4 ) 予算額 8 0 3 億 7 , 1 0 0 万円 ( 平成 2 3 年度一般会計当初予算 )
- ( 5 ) 議員数 3 2 人 ( 条例定数 3 2 人 )

数字はすべて平成 2 3 年 4 月 1 日

### 2 帯広市図書館の概要

#### ( 1 ) 建設概要

帯広市図書館は平成 1 8 年 3 月 3 日に開館した。延床面積 6 , 5 4 5 平方メートル。鉄骨鉄筋コンクリート造り一部鉄筋コンクリート造り。地上 3 階地下 1 階。駐車場は 9 1 台 ( 障害者用は別に 3 台 )。駐輪場は 9 6 台である。

建物の総事業費約 3 5 億円。内訳は、建物 3 1 億円 ( 土地 2 億円、建設 2 9 億円 )。駐車場 3 億円 ( 土地 2 億円、工事 1 億円 )。緑地 9 , 0 0 0 万 ( 土地 6 , 0 0 0 万円、工事 3 , 0 0 0 万円 ) である。

#### ( 2 ) 主な建物の特徴

##### ア レンガを主体とした建物

発色剤を添加していない無垢の粘土色を用いている。年代を経るほど風格を醸し出す。大小 8 万個のレンガを組み合わせている。大レンガは江別、小レンガは豊頃産。

##### イ 地下水の利用

1 3 、 7 5 0 トンの地下水を貯水し、配管延長 2 0 キロメートルの床冷房としている。またトイレや屋外散水として利用し 9 0 パーセント以上は地下へ返している。

##### ウ アースチューブ

8 トンの木炭を地下室に入れ空気を清浄化し、各部屋の換気に使用

している。夏は地下を通すことにより空気を冷やし冬は暖め、冷暖房費の節約。

(3) 主な施設概要

収蔵能力約50万冊、開架図書約23万冊、研修室、多目的視聴覚室、ボランティア活動室、展示コーナー、おはなし室、ITコーナー、読書テラス、学習席、喫茶コーナー

(4) 利用状況

利用登録者数6万5,440人、利用者数22万3,296人、図書貸出冊数95万7,858冊、蔵書数45万470冊、図書館費2億2,776万円、図書購入費3,178万2,000円

### 3 帯広市図書館の運営

帯広市図書館の運営はPFIや指定管理者制度ではなく市直営を選択した。職員51人の内、正職員は館長を含めた11人である。正規職員の他に嘱託職員として週29時間勤務が12人、週24時間勤務が9人としている。嘱託職員は8年間継続で毎年1年ずつの更新となる。これは8年間は同じ人間を雇用することができ、専門性の継続を目的としている。この21人がレファレンスなど専門的分野で窓口などをカバーしている。その他にフルタイムの臨時職員と繁忙期対応として、土・日曜、祝日だけのパート職員を配置しサービスの向上と人件費抑制に努めている。

### 4 市民と一緒に作る図書館について

帯広市図書館が「市民と一緒に作る図書館」といわれる理由を財的支援と人的支援の2点に大別することができる。

(1) 市民からの財的支援

「市民と一緒に作る図書館」といわれる理由のひとつが公募債をはじめ多くの市民からの寄付行為による財政的支援である。帯広市図書館の建設に際して市民から公募債を集めたことをはじめ、図書館をつくる動きがあってから10年間で現金8,500万円、また現金ばかりではなく図書館のなかに必要なベンチやブックカートなどの寄贈など10年間で1億円余りの寄付があった。図書館が建設された18

年度に 19 件 752 万円、19 年度 13 件 502 万円、20 年度 1,092 万円、21 年度 15 件 381 万円、22 年度は個人で 5,000 万円をはじめ 16 件 5,276 万円あり、図書整備等基金として図書購入費などに充てられている。

企業からの寄付により購入した図書には企業名を入れた「 文庫 」というシールを貼付し、図書館に置いている。特に寄付をいただいた企業名のコーナーを作ることは行っていない。個人の寄付により購入した図書については「 氏寄贈 」としてシールを貼っている。

( 2 ) 市民からの人的支援

帯広図書館友の会として現在登録されているボランティアは 96 人である。他に個人ボランティアとして 4 団体、7 個人が室内緑化管理、資料整理、館内清掃協力などで活躍している。

帯広図書館友の会は 6 つの活動部門と広報部門の 7 つのグループで構成されている。図書館がボランティアに支出しているものは材料代と 1 年間 300 円のボランティア保険のみである。

( 3 ) 帯広図書館友の会における 7 グループの活動

ア ハンディキャップサポート部門では、目が見えない方に新聞の連載小説の朗読サービス及び図書館を利用するお子さんたちへの朗読などを行っている。

イ おはなし部門は図書館内でのお話し会、エプロンシアターや折り紙の講習会の実施。その他に市の関連事業講師としての活動がある。

ウ 制作部門については布の絵本、エプロンシアター、おはなしポケット制作などを実施しており、昨年度はフェルトで作るハンバーガーとして市の食育フェスティバルに参加している。

エ 製本部門は壊れた本の修復、製本講習会の開催である。昨年度は 1,091 冊の本を修復し、洋綴じ製本講習を実施している。

オ つどい部門では図書交換会、子ども図書館の集い。

カ フロアー部門は返却図書の多い火曜日の午前に配架と案内を行っている。

キ 広報部門が会報の作成及び会員の募集である。

## 5 委員・会派の所感

市民が図書館に寄せる思いが強い。ボランティアは自分が好きなことを自分ができる範囲で楽しみとして活動している。布の絵本はもともと指先に障害がある方たちや高齢者の機能回復訓練などで作られたものだという。紐を結ぶ、ボタンを留める、マジックテープを貼る、ファスナーを開けるなど機能回復訓練の活用としては合理的である。それを布の手触りが良いことから小さな子たちへの読書活動の一環として転用され、子どもたちの読み聞かせなどに使用されていた。高額な布の絵本も裁縫が楽しみというボランティアが材料費代のみで、子どもたちの笑顔のために製作している。本区が指定管理者制度へ移行する図書館行政のなか、更に充実した図書館サービスを提案していきたい。

貸出セットの手提げ袋はもともとビニール製であったが北海道の冬は寒くパリパリになってしまうのを見て、ボランティアが「それではかわいそうだ」と言って布の手提げ袋を作ったという。また、布の絵本はなくても困らないが、あったほうが子どもたちが喜ぶ。なんとシンプルな気持ちだろう。寒い北の大地だからこそ人の温もりを大切にする人が多いのだろう。ボランティア活動の作業所はガラス越しに見ることができ、その様子を見て参加者が増えているという。明るく楽しく活動することがボランティアの輪を広げていた。そこに図書館サービスの新たな可能性を見た。

豊富な蔵書と検索機能、そして専門職員により必要な情報を提供するサービスの充実。各テーマをもったフロアー構成により目的に合った居場所を提供する、使い方に配慮したフロアー構成。太陽光や地下水など豊富な自然エネルギーを利用した環境配慮型の建築構造。十勝圏の情報ネットワークの拠点として、新しい帯広のシンボルとして地域の文化振興に寄与する機能性とシンボル性。という4つの柱をもとに、だれもが使いやすく、親しみやすい図書館を目指すというように、家族揃って訪れたときそれぞれの目的に合わせて過ごせる空間。知りたいことに対する欲求を納得いくまでじっくり調査できる空間。読みたい一冊を見つけて、くつろぎながら読書できる憩いの空間など、館内いたるところできめ細やかな配慮がうかがえる施設である。江戸川区の図書館運営におい

てもヒントとなる点が多くあったように思いました。

帯広駅から徒歩 2 分、駅前にある図書館の広さにまず驚きました。子どもたちが学べる広い総合学習室。子どもたちの学習に役立つような展示の工夫。本を伏せなくてもコピーができるコピー機。しかし、図書館は市内 1 箇所しかなく、移動図書館バスによる広域な地域をカバーする工夫もされていました。布の絵本作成はボランティアで、材料費のみ提供。しかも、作成している所は、図書館利用者が通る場所です。ボランティア活動は多岐にわたります。江戸川区もボランティアが盛んですが、まだまだ学ぶことはあります。図書館への寄付が多いのも特徴のひとつです。寄付をいただくと、氏寄贈とシールをはって紹介しています。財政が大変なか、資金面でも工夫されていることがよくわかりました。

図書館運営にしっかりとしたポリシーを持っている。説明いただいた館長さんのお話の随所に伺われた。帯広市図書館パスファインダーという小冊子が各コーナーに置かれ、参考図書の紹介や新聞、インターネット情報やテーマに関係のある施設の案内が掲載されていることや、また資料検索用のパソコンなどで図書や情報を検索できる。蔵書購入の際には、図書館員全員により選定を行っている。江戸川区には中央図書館をはじめ 1 2 館の図書館があるが、今回の視察で、運営や蔵書の選定方法、利用者サービスにおいて参考となるような事例が散見できた。

計り知れない多くの情報と知識、また発見がこの図書館にはあると感じた。館内は、老若男女問わず、真剣な眼差しで本と向き合っている人達で賑わっていた。各フロアーは本当に設備が充実していた。驚いたことに、三階のフロアーには、喫茶コーナーが設けてありくつろぎながら読書もできるという斬新なスペースもあった。私は、区民のだれもが利用しやすく、親しみやすい江戸川区の図書館づくりを現在、そして未来の区民のために、私は文教委員会委員として推進していく。

報告書の作成にあたっては、帯広市提供の資料を参考にしました。